

【富士見町】校務DX計画

2025年1月

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※留意事項
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	0%	100%	100%	100%	100%	・クラウドツールの未活用やFAXでのやり取り・押印の見直し、不合理な手入力作業の一扫については、校務の効率化・ペーパーレス化の大きな阻害要因になっているものであることに十分留意する。
	不合理な手入力作業の一扫に取り組んだ学校の割合	0%	100%	100%	100%	100%	
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%	
選択項目	1.児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受けつけ、学校内で集計している学校の割合	25%	100%	100%	100%	100%	・GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストの34項目より選択し作成。自己点検の結果等を踏まえつつ、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題を選出した。
	9.1人1台端末を児童生徒に持ち帰らせ、家庭で利用できるようにしている学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%	
	29.教員は校務用の個人メールアドレスが附与されている学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%	
課題と解決策の具	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	・押印の廃止について、校内だけで推進をしても富士見町や関係諸団体等と共同で制度・慣行を見直していかなければ、かえって業務が複雑化してしまいます。 ・学習系データと校務系データとの連携が困難で、校務処理の実施が職員室等の限定された場所となってしまいます。					
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	・関係諸団体等への実態調査と制度や慣行の見直しを検討してもらえよう働きかけを行います。 ・学習系端末が全ての職員に行き渡るように整備し、既に整備しているリモートアクセス環境などを活用し、学習系端末から操作できるように検討していきます。					
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	・令和6年度に域内全ての学校で長野県小中学校統合型校務支援システムへの移行が完了しています。長野県や近隣市町村とも協議しながら次世代校務支援システムについて調査研究を進めていきます。					